

● 野水堀で癒やし散歩(街並み部会)

昭島は湧き水が豊富であり複数の野水堀があり、玉川児童遊園北側の野水堀は暗渠になっている遊歩道です。園児たちが散歩していることも多く、西川コンクリートから寄付いただいたタイルの模様を見て楽しい会話のきっかけになっています。JAのみどりっ子の前にはツル性の植物を三種類植えフェンス周りを彩っています。

たくさんの方から寄付いただいたツゲ、ジャーマンアイリス、ヒガンバナ、昭島市から定期的にいただくビオラなども植えてあり、四季が楽しめます。ツツジとアジサイが中心に植えてありますが、来春にはスイセンの花が多くみられると思います。



▲プードルのトピアリー

街並み部会は毎月第三水曜日お昼前の2時間程度、遊歩道の清掃や植栽整備活動をしています。路面が濡れていると滑りやすく危険な時もありますが、少しでも滑らないようにと気持ちを込めて清掃をしています。活動は、なかがみの森プロジェクトと称して、拡がれ緑と笑顔をスローガンに、ワイヤーフレームで可愛らしいプードルをかたどったトピアリーを植え、グランドカバーにヒメイワダレソウを広げております。

5年前にはハチに悩まされましたが、今ではチョウやミミズなど目につき小さくても自然の営みを見られ、土に生かされていると感じると共に、土いじりは気分転換になり健康にも良いことを実感しています。お薦めの散歩コースです。

ぜひ、トピアリーがどこにあるのか、タイルの模様に何があるのか、どんな植栽が植わっているのか確認してください。

(街並み部会 / 菅谷厚史)



▲散歩中にご挨拶&小休止



▲タイルには、それぞれ違う模様が描かれています

● 中神小学校4年生の郷土研究

令和2年10月21日(水)、中神小学校4年生(72名)が、中神熊野神社を訪れました。社会科の目標「郷土の文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人たち」を勉強するためです。

昨年1月に、昭島市の有形文化財(建物)に指定された熊野神社の歴史や普段は見られない拝殿内部の見学など、新しい知識を得て感激していました。正しい神社のお参りの仕方(2拝2拍1拝)を覚え、初詣で役に立つと喜んでいました。

郷土に尽くした先人の代表として、江戸時代末期に活躍した中野久次郎(通称中久大尽)の話を知りました。中野久次郎さんは、当時盛んだった織物の仲買商で、地域の産業であった養蚕業を援助し、全国に売って財を作りました。一方、村の橋を作ったり、お寺や神社の修理に力を貸して、村の発展に尽くしてくれました。



▲中神小学校4年生集合写真

新型コロナ対策の予防(マスク着装、三密防止など)に注意した社会見学となりました。(取材・写真/広報部会)